



平成 25 年

## 第 4 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

はじめに	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・コミュニティ活動の推進	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	3
・交流活動の推進	3
・広域行政の推進	5
・陸上自衛隊名寄駐屯地の堅持	6
“安心して健やかに暮らせるまちづくり”	7
・健康の保持増進	7
・地域医療の充実	7
・高齢者福祉の充実	9
“自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”	10
・循環型社会の形成	10
・消防	11
・防災対策の充実	12
・交通安全	12
・消費生活の安定	12
・住宅の整備	13
・都市環境の整備	14
・上水道・簡易水道の整備	14
・下水道・個別排水の整備	15
・道路の整備	15
・総合交通体系	16
・雪を活かし雪に強いまちづくりの推進	17
“創造力と活力にあふれたまちづくり”	17
・農業・農村の振興	17
・商工業の振興	21
・雇用の安定	23
・観光の振興	24
“心豊かな人と文化を育むまちづくり”	27
・小中学校教育の充実	27
・大学教育の充実	29
・食育の推進	30
・生涯学習社会の形成	31
・地域文化の継承と創造	33
・生涯スポーツの振興	35
・青少年の健全育成	35

本日、平成 25 年第 4 回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## はじめに

本年度の文化賞等、各種表彰について申し上げます。

11 月 3 日の文化の日に、名寄市文化賞条例に基づき、佐藤喜代枝<sup>さとうきよえ</sup>さんに文化奨励賞を授与いたしました。

「科学部門（古典文学及び相談支援）」で受賞された佐藤さんは、市立名寄図書館が毎年開催している「古典文学講座」をはじめ市内外で古典文学に関する講師を長年にわたって務められ、多くの人に古典への親しみと知識を深め、後世に伝える取組にご尽力されました。

また、教員在職中、障がい児教育に専門的に関わり、悩みを抱えるご家族への対応を通じてカウンセリングの必要性を強く実感したことから、応用心理カウンセラーなどの資格を取得し、名寄市教育委員会教育専門相談員及び名寄市立大学精神保健センター相談員を務め、悩みを抱える方々の心のケアを行ってきました。平成 19 年からは北海道教育委員会スクールカウンセラー活用事業の委嘱を受け、上川及び宗谷管内の特別支援学校・高等学校における児童生徒や保護者へのカウンセリング活動をはじめ、教員対象の研修にも取り組

まれました。

教員退職後もカウンセラーとして学校教育に積極的に関わり、本市の教育振興に大きく貢献されています。

名寄市表彰条例に基づく各表彰については、自治、保健衛生、産業経済、教育文化、住民運動実践の各分野で市勢の発展に寄与された 23 個人の皆様に功労表彰を、多額の寄附によりお力添えをいただいた 15 個人、18 団体に善行表彰を、芸術文化、スポーツなどの分野で輝かしい活躍をされた 1 団体に栄誉賞をそれぞれお贈りいたしました。

受賞された皆様には、今後とも本市の発展にご尽力を賜りますとともに、より一層のご活躍とご健勝を願っています。

## “市民と行政との協働によるまちづくり”

### コミュニティ活動の推進

次に、まちづくり懇談会について申し上げます。

名寄市町内会連合会主催によるまちづくり懇談会は、10 月 28 日の市民文化センターを皮切りに全 10 回開催され、名寄市立大学生の参加をはじめ、各町内会から例年を上回る市民が参加されました。

いただいた貴重なご意見、提言などは、次年度予算をはじめ、今後の行政運営に反映させ、協働のまちづくりを進めてまいります。

## 人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の推進について申し上げます。

男女共同参画社会の実現に向けては、市民への意識啓発が重要であることから、今般、地域づくり研修会開催支援金交付事業の採択を受け、12月8日、駅前交流プラザ「よろーな」において講演会を開催することとなりました。

講師には、TVなどでも活躍されている漫画家 くらたまゆみ 倉田真由美先生をお招きし「くらたま流 スッキリ生きる方法」と題して、楽しみながら男女共同参画について考える機会を提供してまいります。

## 交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

ふるさと会交流事業については、東京なよろ会総会が11月10日、東京都内のホテルにおいて開催され、会員をはじめ、約80人の出席によりスキーやゴルフツアーなどの事業計画が承認されました。

東京都杉並区との交流事業については、10月25日、26日に、「阿佐谷ジャズストリート 2013」が開催され、本市出身のミュージシャンが交流自治体セッションに参加し、イベントを盛り上げました。

また、11月9日、10日には、「すぎなみフェスタ 2013」において、杉並区職員の協力をいただきながら、煮込みジンギスカン 1,100食

のほか馬鈴しょ、玉ねぎなど全量を完売しました。

国際交流における、友好都市ロシア連邦ドーリンスク市との交流では、道北6市によるユジノサハリンスク道北物産展が9月7日、8日に開催され、当市からは「名寄・ドーリンスク友好委員会」が中心となり特産6品目を販売したところ、好評を博し全品目を完売することができました。

台湾との交流では、台湾からの観光客誘致に向けた取組として、10月16日から22日まで、アジア・太平洋地域最大の旅行見本市である「台北国際旅行博」に職員1人を派遣し、本市の知名度向上と観光PRを図りました。

交流居住の推進における「お試し移住住宅」については、横浜市から札幌市に移住した50歳代と40歳代の夫婦が8月26日から9月1日までの7日間、東京都八王子市の60歳代の夫婦と10歳代の長男の家族が9月2日から30日までの29日間、それぞれ利用され、名寄での生活を体験いただきました。

次に、地域おこし協力隊について申し上げます。

2次募集を行い選考を進めていた農業支援員については、10月7日付で橋本<sup>はしもと</sup>蒼士<sup>たかし</sup>さん、平澤<sup>ひらさわ</sup>宏幸<sup>ひろゆき</sup>さんの二人を委嘱しました。現在は、風連日進地区に移住し農作業研修に励むとともに、農閑期における

地域貢献活動に向けて、準備を進めています。

なお、地域振興支援員については、残念ながら体調不良による退任の申し出があり、先に受理させていただいたところです。

## 広域行政の推進

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺 13 市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会」については、北海道の地域づくり総合交付金を活用し、その地域ならではの魅力・価値を伝え、新たに訪れる方々に滞在・交流を楽しんでいただくことを目的に「天塩川住民再発見ツアー」を実施しました。13 市町村を 4 つのエリアに分け、10 月 25 日から 27 日は、美深町・音威子府村・中川町・中頓別町のエリアで、11 月 1 日から 3 日は、天塩町・豊富町・幌延町のエリアで実施されました。なお、残り 2 つのエリアについては、来年 1 月から 2 月の実施を予定しています。

また、「すぎなみフェスタ 2013」において、協議会構成市町村の特産品を販売するとともに、協議会 PR 用エコバッグを買い物袋として活用するなど、天塩川地域のさらなる PR に努めました。

さらに、首都圏プロモーション活動の一環として、11 月 16 日に東京都台東区において開催された「2013 北海道暮らしフェア」に参加

し、「お試し移住住宅」のPRをはじめ、移住環境などについて説明を行いました。

なお、本協議会の取組については、本年度をもって道による2カ年の支援が終了するため、来年度以降の進め方について、構成市町村と協議しているところです。

### **陸上自衛隊名寄駐屯地の堅持**

次に、自衛隊関係について申し上げます。

本年12月中旬の決定が見込まれる新防衛大綱については、現在、国において調整の最中にありますが、先に防衛省が示した概要には、道内を訓練地として重視する内容が盛り込まれたものの、西南防衛へのシフトが鮮明との報道もあり、予断を許さない状況にあると認識しております。

このことから、この間、北海道基地協議会や北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会など全道的な取組はもとより、第二師団管轄の諸団体や上川北部市町村での活動、さらには、市内関係団体で構成する陸上自衛隊名寄駐屯地増強促進期成会での取組など、様々な機会を通じ、精力的に国への要望を行ってきたところであり、引き続き、全力で取り組んでまいります。



## “安心して健やかに暮らせるまちづくり”

### 健康の保持増進

次に、なよろ健康まつりについて申し上げます。

第26回を迎えた「なよろ健康まつり」は9月28日、「みんなで広げよう健康の輪」をテーマに、名寄市立大学など各団体との協働のもと総合福祉センターを会場に開催しました。

内臓脂肪CT検査、体内健康測定、骨密度測定、ストレス測定などに400人の市民が集まり、健康チェックを通じて生活習慣の見直しや健康への啓発を図ってきました。

### 地域医療の充実

次に、病院事業について申し上げます。

本年度、4月から9月までの上半期における患者取扱い状況は、入院患者数が延べ5万2,077人で前年比1,234人の減少となり、外来の取扱い患者数では、延べ10万8,517人と前年比5,302人の増加となっています。

医業収支の状況は、医業収益が36億5,749万円となり、前年比107.8パーセント、金額で2億6,591万円の増となりました。主な内訳では、入院収益で1億8,630万円の増、外来収益で7,892万円の増となっています。

また、医業費用は 39 億 4,805 万円と、前年比 107.1 パーセント、金額で 2 億 6,324 万円の増となりました。主な内訳では、給与費は前年比 105.5 パーセント、金額で 1 億 2,334 万円の増、薬品費・診療材料費などの材料費は、前年比 112.7 パーセント、金額で 1 億 802 万円の増となっています。

この結果、上半期の医業収支は、差し引き 2 億 9,055 万円の損失となり、医業外収支、特別収支を含めた全体の収支では、1 億 5,728 万円の損失となりました。

今後も、医業収益の確保に努めるとともに経費節減により収支の改善を図り、経営の健全化に向け、より一層努力してまいります。

次に、精神科病棟改築事業について申し上げます。

11 月 18 日現在、工事の進捗率は 39.8 パーセントで、内訳は建築主体工事が 48.5 パーセント、空調設備工事が 29.5 パーセント、給排水衛生設備工事が 27.0 パーセント、電気設備工事が 22.0 パーセントとなっています。

次に、名寄東病院の本年度上半期の経営状況について申し上げます。

患者数は、入院で延べ 1 万 8,955 人、前年比 468 人の増加となり、

外来では延べ 1,615 人、前年比 145 人の増加となりました。

収支面では、事業収益が 3 億 2,384 万円となり、前年比 1,227 万円の増収となっています。

事業費用は 3 億 1,526 万円で、前年比 2,139 万円の増加となり、差し引き約 858 万円の医業利益が計上されました。

### **高齢者福祉の充実**

次に、高齢者の福祉施策について申し上げます。

平成 25 年度「長寿を祝う会」を市内の関係団体と実行委員会を組織し、9 月 14 日に市民文化センターで開催しました。

長年にわたり本市の発展にご尽力いただいた 104 歳の最高齢者をはじめ、白寿、米寿を迎えられた 200 人の方々と金婚を迎えられた 100 組のご夫婦をお招きしてお祝いを申し上げ、記念品を贈呈しました。

併せて「名寄市生きがい作品展」を 9 月 14 日から 16 日まで開催し、100 人の方々から 143 点の出品をいただき、市民の皆様にご覧いただいたところです。

また、75 歳以上を対象に町内会など 78 団体が開催した「敬老会」では、4,976 人の方々が祝福されました。

## “自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”

### 循環型社会の形成

次に、廃棄物対策について申し上げます。

古着などの回収については、市内 12 箇所の公共施設に設置しているボックスで、本年 4 月から繊維全般のリサイクルが可能となり、上半期における回収量は既に例年の回収実績を大きく上回ったところです。今後も、市民の負担軽減や埋立処分場の延命のため、市民への周知・啓発を図ってまいります。

また、廃食用油については、市内公共施設で拠点回収し、バイオディーゼル燃料として再利用しています。本年 9 月末には、市内に生産拠点を持つ事業者が事業から撤退しましたが、旭川市の事業者が引き継ぐこととなり、その輸送と管理に費用が嵩むため回収全量を有償として取り扱うことで協定書を交わしたところです。

次に、新エネルギー・省エネルギーについて申し上げます。

省エネを推進する「エコチャレンジ 2013 夏」の表彰式を 11 月 12 日に行いました。本事業には 13 人の応募があり、前年比 10 パーセントの節電目標を達成された 9 人に表彰状と景品を贈呈しました。なお、達成された方々の体験はパンフレットなどにとりまとめ、省エネ意識の啓発に活用するとともに、冬季間においては「エコチャ

レンジ 2013 冬」として実施してまいります。

また、旧風連中学校跡地におけるメガソーラー発電施設については、12月9日に竣工式が執り行われる予定であり、民間におけるモデル的な取組として支援を行ってまいります。

## 消防

次に、消防事業について申し上げます。

10月末現在までの災害出動状況については、火災件数が13件で前年比5件の増となり、火災による負傷者は3人となっています。

救急出動件数については、1,054件で前年同期比171件の増となっています。

本年度実施事業については、風連地区の消火栓更新12基を完了しています。また、現在、風連消防団第4分団車の更新を実施しており、12月上旬の納車を予定しています。

防火対策については、「秋の全道火災予防運動」期間中に一般家庭と独居老人宅の防火訪問、消防車試乗会や記念撮影の実施、防火パレードや防火グッズの配布など、火災予防のPRや防火対策の啓発を実施しました。

## **防災対策の充実**

次に、河川の防災対策について申し上げます。

風連地区の無名川水位通報装置設置工事については、今月末の完成を予定しており、減災及び防災対策の推進に努めてまいります。

## **交通安全**

次に、交通安全対策について申し上げます。

交通事故のない住みよいまちづくりのため、「交通死亡事故ゼロ」を目標に、市民一丸となって交通安全運動を進めてまいりました。

11月7日に名寄市民会館で開かれた「交通安全道警音楽隊コンサート in なよろ」に、市内外から320人の参加がありました。高齢者の交通事故防止を考えるフォーラムをはじめ、道警音楽隊による演奏やカラーガード隊のステージドリルなどが披露され、高齢者の交通事故への注意喚起が行われました。

## **消費生活の安定**

次に、消費生活相談事業について申し上げます。

本年4月に本市及び下川町・美深町・音威子府村・中川町の5市町村における相談窓口となる名寄地区広域消費生活センターを開設しました。10月末現在の相談総件数は173件で、そのうち下川町

5 件、美深町 3 件、音威子府村 2 件、中川町 2 件の相談がありました。

今後とも、研修会や講演会をはじめとした情報の提供や出前講座などをおして、消費生活相談の周知を図るとともに、迅速な対応、適切な相談業務に努めてまいります。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

北斗・新北斗団地建替事業については、昨年度着手した北斗団地の鉄筋コンクリート造 2 階建て 1 棟 10 戸が 9 月末に完成、本年度建設分の鉄筋コンクリート造 2 階建て 1 棟 12 戸については 9 月に着手し、11 月末現在の進捗率は約 10 パーセントとなっています。また、新北斗団地の全面的改善工事は、コンクリートブロック造及びプレキャストコンクリート造平屋建て 2 棟 8 戸を 7 月に着手し、10 月末に完成しています。

ノースタウンなよろ団地の長寿命化型改善工事については、1 棟 30 戸を 7 月末に着手し、12 月の完成を予定しています。

さらに、風舞団地の長寿命化型改善工事に伴う実施設計については、平成 26 年 1 月の完了を予定しています。

## 都市環境の整備

次に、公園の整備について申し上げます。

都市公園の長寿命化修繕計画による公園施設整備工事は、浅江島公園のコンビネーション遊具の設置工事を10月に完了しています。

## 上水道・簡易水道の整備

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための老朽管更新工事については、16線道路老朽管更新工事ほか12路線、5,423メートルが11月に完了し、現在は国道40号横断部、延長80メートルを12月中旬の完成に向けて整備を進めています。

配水管網整備については、風連29線配水管網整備工事ほか4路線、延長1,452メートルが11月に完了し、現在は西町西11条仲通ほか1路線、延長270メートルを12月中旬の完成に向けて整備を進めています。

また、簡易水道事業については、智恵文八幡地区浄水場の増補改良工事が10月に着工となり、ろ過器を含む機械、電気設備の改良工事を来年1月下旬の完成に向けて工事を進めています。



## 下水道・個別排水の整備

次に、下水道事業について申し上げます。

老朽化した設備の改築工事については、施工中の名寄下水終末処理場における沈砂池<sup>ちんさち</sup>機械設備外更新工事の3月上旬完成、併せて長寿命化更新実施設計の業務委託を2月下旬完了、さらに雨水管渠新設工事では、豊栄川3号幹線、延長129メートルを1月上旬の完成に向けて順調に進捗しています。

また、個別排水処理施設整備事業については、新たに12基の合併浄化槽が供用開始され、現在、6基の整備を進めています。

## 道路の整備

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている昭和通、西4条仲通、東1条通の3路線については発注を終え工事を進めています。また、地域の元気臨時交付金により採択された路線のうち、南6丁目仲通は12月、風連西町5丁目線は来年1月完成に向けて現在工事を進めています。

また、徳田18線緑丘連絡線については12月に工事を発注し、主に道路排水関係を先行して工事着手する予定です。

道路の維持補修にかかる防塵処理工事については、186路線、約

40 キロメートルの 11 月末完了を予定しています。

## 総合交通体系

次に、地域公共交通について申し上げます。

宗谷本線活性化推進協議会による「JR 北海道宗谷北線運輸営業所に対する要望懇談会」を、本年度は 11 月 25 日に前倒して開催しました。

本市をはじめ、士別市、稚内市など沿線自治体により、本協議会の目的である宗谷本線の高速化について要望したほか、相次ぐ事故などへの再発防止について、強く申し入れを行ったところです。

次に、コミュニティバスについて申し上げます。

コミュニティバスについては、現在、この間の実証運行やアンケート調査、市内 3 か所で実施した住民との意見交換会等において明らかとなった課題について、対応を検討しています。

主な課題は、西回りと東回りの乗り継ぎ、土曜日や夜の便の低利用の状況、他バス路線との接続などであり、西回り東回りを統合した(仮称)東西線など、新たな手法も含めて検討しており、第一弾として 12 月中の改正を目指し作業を進めているところです。

## 雪を活かし雪に強いまちづくりの推進

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪総延長 443 キロメートル、排雪総延長 145 キロメートルを計画しています。

本年度から、さらなる冬の道路環境向上のため、試行として路線毎の除雪幅員を設定し、幹線道路においては排雪回数が増と、新たに積上げ除雪を行うことにより安全な車両すれ違い幅員の確保に努めます。また市街地近傍に新たな雪堆積場を確保できたことから、排雪時のダンプ運搬の効率化により、日数の短縮を図ってまいります。

また、これら新たな除排雪の試行については広報やホームページ、まちづくり懇談会をとおして市民へ周知しています。

## “創造力と活力にあふれたまちづくり”

### 農業・農村の振興

次に、農業・農村行政について申し上げます。

主要農作物の農作業及び生育状況については、水稻の収穫作業終了が10月5日となり、平年に比べてもち米で3日、うるち米で2日遅くなりました。10月15日現在で公表された農林水産省の作況指数は、全国で102、北海道で105、上川では105となりました。本市の

11月19日現在の出荷状況については、もち米23万6,006俵、うるち米2万1,927俵、合計25万7,933俵となり、概ね90パーセントの出荷率で、一等米比率は98パーセントとなり、品質・収量ともに平年を上回る状況です。

畑作は、春先の融雪の遅れや低温により、移植作業が遅れ、その後6月から7月の好天により回復の兆しが見えたものの、8月からの降雨により収穫作業が遅れました。作況については、豆類、てんさい、スイートコーン、かぼちゃは「平年並」、秋小麦、馬鈴しょ、玉ねぎは「やや不良」、春小麦は「不良」となっています。

次に、米政策について申し上げます。

本年度の米の生産数量目標は、もち米が対前年比0.42パーセント減の1万2,094トン、うるち米は2.37パーセント減の1,522トン、合計で0.65パーセント減の1万3,616トンの配分となっています。また、加工用米・備蓄米を含めた水稻作付面積は対前年比0.91パーセント増の3,408ヘクタール、水稻作付耕作者は16戸減の380戸となりました。

経営所得安定制度における米の直接支払交付金では、対象農家378戸、対象水田2,646ヘクタールで、交付額は3億9,700万円となっています。同じく転作部分では対象面積2,744ヘクタール、対象農

家 657 戸で、交付金については、麦・大豆・飼料作物など国の戦略作物を対象とする水田活用の所得補償事業が 5 億 5,517 万円、野菜類など地域特性を活かした作物に交付される産地資金が 3 億 2,673 万円となっています。これに加算措置として、耕畜連携加算が 2 件 5 ヘクタールで 72 万円、緑肥輪作加算が 22 件 25 ヘクタールで 250 万円をそれぞれ見込み、交付金合計では 14 億 840 万円を予定しており、現在、年内の支払いに向けて交付事務を進めているところです。

また、北海道が設定する畑地産地資金については、77 戸 337 ヘクタールの交付対象を見込み、年明けの交付を予定しています。

畑作物戸別所得補償交付金については、既に営農継続払い 2 億 6,104 万円が交付されており、今後は、数量払い 3 億 3,400 万円の交付を見込んでいます。

環境保全型農業直接支援対策については、8 件 13 ヘクタールで 105 万円の交付を見込んでいます。

農地利用集積円滑化団体を通じて農地を賃貸した場合に、国から補助が受けられる規模拡大加算については、これまで 5 件 19 ヘクタールの申請があり、382 万円の交付となりました。

なお、昨年創設された人・農地プランにおける支援策である農地集積協力金は、1 件 70 万円の交付が見込まれています。

次に、東京都杉並区におけるスイートコーンのPR活動について申し上げます。

9月3日から5日まで、杉並区役所前において、道北なよろ農業協同組合が事業主体となり、市と連携して販売促進活動に取り組みました。

旬のスイートコーンのほか、かぼちゃ、馬鈴しょの販売、PR活動を行うとともに、東京都杉並区における名産スイートコーンの取扱店を紹介するなど、産地PRと販売促進を図りました。

次に、「中山間地域等直接支払制度」及び「農地・水保全管理支払交付金」について申し上げます。

農村部においては、農業者や関係者の協定に基づき、集落における耕作放棄地の発生防止と農道・水路を保全する活動が行われており、支払われる交付金は総額で2億8,110万円となっています。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

本年度のエゾシカ駆除については、当初の駆除期間から25日間の延長となる10月25日まで実施し、駆除した422頭の残滓<sup>ざんし</sup>については焼却処分を実施したところです。

次に、ヒグマの出没などについて申し上げます。

本年度のヒグマ報告数は、11月8日現在で49件となっています。

例年であれば収穫期を終えると出没が無くなる場所ですが、10月に曙地区、智南地区で4件、11月に智恵文の智北、八幡地区から2件の報告があり、箱罾による捕獲許可期間を延長するなど、関係機関と連携して対応しているところです。

次に、畜産振興について申し上げます。

公共牧野については、名寄市営牧野では、6月7日から10月21日までの137日間に延べ3万1,928頭を、母子里地区共同牧場では、6月18日から10月28日までの133日間に延べ1万3,351頭を、市内酪農家20戸から受精対象牛を主体に受け入れ、適正な飼養管理により高い受胎率と個体の資質向上を図ってきました。

## 商工業の振興

次に、商工業について申し上げます。

北海道が公表している四半期毎の地域別経済動向調査によると、上川北部地域における7～9月の地域景況感は、前期の「横ばい」から見て「やや上昇」となっています。

生産動向については、前期と同様に「横ばい」ですが、車や住宅などは消費税増税の影響により上昇傾向にあることから消費動向は

「やや上昇」となっています。

市の融資関係では、10月末現在、経営資金、設備資金ともに増加傾向で推移しており、経営資金については、融資件数で92件、融資額は5億4,457万5千円となっており、前年比5件の増、金額は5.1パーセントの減となっています。また、設備資金については、融資件数で11件、融資額は8,252万円となっており、前年比3件、金額で68.4パーセントの増となっています。

年末融資に備え商工会議所、商工会、中小企業相談所、金融機関とも協議を行い、融資枠の確保など対応してまいります。

中小企業振興条例による各種中小企業者助成制度については、これまで随時見直しを行ってきたところですが、今後も経済情勢の変化に応じて、中小企業者の皆様が利用しやすい制度となるよう見直しを進めてまいります。

次に、駅前交流プラザ「よろーな」について申し上げます。

本年4月にオープンしてから10月末現在で、会議室など793件の利用となっています。月別の利用件数は徐々に増加傾向にあり、立地場所など使い勝手の良さから、利用者の定着と拡大が進んでいるものと考えています。

観光案内所については、土日を含めて営業しており、10月末現在、



1,318人のご利用をいただいています。また、レンタサイクル、物産の販売、ドリンクサービスの提供、キッズスペースの開設など各種サービスの充実を進めています。

今後も、来客者の意見を参考としながらホスピタリティの提供を図るとともに、引き続き改善に努めてまいります。

次に、公設地方卸売市場について申し上げます。

指定業者の破産手続き開始に伴う営業停止以降、関係者のご努力もあり市内の流通に大きな影響は出ていませんが、市内買受人の方々から安定的な流通を確保するため早期の市場再開について要望をいただきましたので、緊急避難的な対応として市場冷蔵冷凍施設を貸出し、引き続き当面の対応をお願いしているところです。

公設市場設置者として正常な流通を確保すべく、市内外の関係先など、引き続き市場運営に係る協議などを進めてまいります。

なお、アスベスト除去工事後の復旧工事については、今後の施設利用の見通しが明確になっていないことから、外壁の修復など、必要最低限の工事を発注し、11月に完了しました。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における 9 月末の月間有効求人倍率は 0.88 倍で、前年同月比 0.19 ポイントの上昇となり、24 カ月連続して前年同月を上回っています。

新規高等学校卒業予定者の求職、求人、就職の状況については、就職希望者は 141 人で、前年比 18 人、11.3 ポイントの減、うち管内就職希望者は 88 人で、前年比 12 人、12.0 ポイントの減、管内求人数は 133 人で、前年同月比 27 人、25.5 ポイントの増となっています。

就職内定者数は 41 人で、前年比 3 人、7.9 ポイントの増、就職率も前年比 5.2 ポイント増の 29.1 パーセントとなっています。

11 月 26 日には、昨年につき、介護・福祉分野の人材確保の取組として、名寄公共職業安定所、上川北部地域人材開発センターなどと共催の「介護就職デイ」を設け、市内の関係事業所と情報交換を行い、今後の人材確保につなげる取組として「名寄市介護・福祉人材確保推進懇談会」を開催しました。

今後も、関係機関・団体と連携して求人要請、求人開拓などに取り組んでまいります。

## **観光の振興**

次に、観光の振興について申し上げます。

本市を訪れる体験型観光「アイソン彗星に会いに行こう」のツ

アー企画が、JTB北海道により催されることとなりました。札幌圏をターゲットに12月14日、15日の一泊二日の行程で、天体観測やカーリング体験、煮込みジンギスカンなど本市の魅力を堪能いただく予定です。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、9月末までの上半期における入込客数が32万9,711人で、前年度比5万1,317人の増となり、週末の観光客の入り込みを中心に増加傾向となったところです。今後とも地場特産品などの販売により、多くのお客様に立ち寄っていただけるよう努力してまいります。

ふうれん望湖台自然公園については、5月から10月までの開園期間中、施設利用人数578人で、前年度比88.4パーセントとなり、コテージ及び風扇館で利用人数が増加となったものの、オートキャンプ場及びキャンプ場で利用人数が減少しました。

現在、地元町内会をはじめ関係団体から、ふうれん望湖台自然公園の今後の方向性について幅広く意見を求めており、本年度中に方向性を定める予定です。

なよろ温泉サンプラーについては、ボイラー設備更新に伴い、10月15日から11月25日まで休業しました。今後も、市民の皆様をはじめ、より多くの皆様に快適にご利用いただけるよう一層努めてまいります。

名寄ピヤシリスキー場については、スキーシーズンを迎えるにあたり、12月14日のオープンに向けリフト整備など準備を進めており、12月2日には安全祈願祭が行われ、シーズン中における安全と無事故を祈願する予定です。

次に、物産振興事業について申し上げます。

ご当地グルメとして、この間PRに取り組んできた「なよろ煮込みジンギスカン」については、9月7日、8日の日程で青森県十和田市にて開催された「北海道・東北B-1 グランプリ イン 十和田」大会に、北海道としては3番目の団体として出展しました。

大会当日は、300人以上の行列ができるほど人気が高く、道外における可能性を実感することができました。

また、これまでの取組と大手民間企業との販売方針が一致し、10月から「なよろ煮込みジンギスカン パック」が販売され、市内をはじめ全道の量販店、首都圏での北海道アンテナショップなどの店頭に並び、購入機会が拡大され、当初の目標であった名寄の知名度向上に繋がるものと期待しています。

各地での物産展については、10月26日に札幌市サンピアザにおいて「～もち米の里～名寄市特産品フェア」を開催し、もちつきの実演会や地場特産品の販売と観光PRを行いました。

さらに、東京都杉並区で10月25日、26日に開催した「北海道名寄市物産展」では生産者が主体となり、旬の馬鈴しょやかぼちゃ、トマトジュースなどの販売、PRを行いました。

今後も民間を主体とした地場特産品の販路確保、拡大への支援に力を注いでまいります。

## “心豊かな人と文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、学校教育について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、10月16日に、豊西小学校と名寄東中学校を会場として名寄市教育研究大会が開催され、名寄市教育改善プロジェクト委員会が示した学習規律を踏まえて授業を公開するとともに校内研究の取組を発表し、授業の改善に向けて活発な研究協議が行われました。

名寄市教育改善プロジェクト委員会では、学校力向上に関する総合実践事業アドバイザーを招き、名寄小学校において9月26日と10月9日教育講演会を開催し、延べ151人の教員が授業の技法や英語の指導方法を学び合いました。

また、10月から教育委員会のホームページに名寄市の学校力を高める取組を掲載し、学校力向上に関する総合実践事業と名寄市教育

改善プロジェクト委員会の取組を広く発信しているところです。

特別支援教育の推進については、乳幼児期から就労まで一貫して的確な教育的支援を行うため、本年度は、専門委員会を幼稚園・保育所部会、小・中学校部会、高校・就労部会の3部会構成とし、10月7日に、名寄市特別支援連携協議会専門委員会を開催しました。

フッ化物洗口<sup>かぶつせんこう</sup>については、「北海道歯・口腔の健康づくり 8020 推進条例」に基づき、児童のむし歯予防と健康な歯をつくるため、本年からは小学校8校において教職員及び保護者説明会を行い、実施希望者は87.4パーセントとなっています。実施にあたりましては、希望調査及び水道水による練習を行い、10月から週1回各小学校で順次実施しています。

次に、学校施設の整備について申し上げます。

名寄南小学校の校舎などの改築については、実施設計において各施設の配置や建物の仕様など、詳細について検討を進めているところです。また、農村地区小中学校の適正配置については、風連地区と智恵文地区それぞれの学校において、保護者などを対象に「学校運営と今後の課題」などについて意見交換を行っており、今後も地域との協議を進めてまいります。

## 大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

平成 26 年 3 月末で任期満了となる名寄市立大学及び名寄市立大学短期大学部の学長選挙が 11 月 13 日に行われ、現職の青木紀<sup>あおきおさむ</sup>氏が再選されました。なお、任期は、平成 26 年 4 月から 28 年 3 月までの 2 年間となります。

将来、食育に携わる学生を対象として農林水産省北海道農政事務所旭川地域センターとの共催で、10 月 6 日に「食と農をつなぐ農作業体験と大学生との意見交換会」を開催しました。智恵文の山田ファームでの馬鈴しょ収穫体験、有限会社松山農場の柳生佳樹<sup>やぎゅうよしき</sup>氏の講演や意見交換を通じて、学生は生産と消費、付加価値づくりなど食品・農産物の安全性や地産地消について理解を深めました。

高校生が大学の講義を体験し進路選択に活用することを目的とする名寄高等学校との高大連携事業「大学授業体験」を 10 月 11 日に実施し、1 年生 152 人の参加をいただきました。

短期大学部では、11 月 2 日、3 日に「保育の環境を考える 一人ひとりを大切にするために」をテーマに「2013 年度こどもセミナー」を開催し、東京おもちゃ美術館の石井今日子<sup>いしいきょうこ</sup>氏の講演やシンポジウム、ワークショップなどに保育士、幼稚園教員など 96 人が参加され、より良い保育環境のあり方について理解を深めました。

今後も、地域に根ざした教育活動を展開するとともに、名寄市立大学の特色と専門性を生かした地域貢献活動の取組に努めてまいります。

## 食育の推進

次に、食育の推進について申し上げます。

栄養教諭による食育の推進については、在籍校である名寄小学校、風連中央小学校から連携校へ派遣し、学校給食を生きた教材として活用した栄養・給食指導、マナーなど、学校における食に関する指導に積極的に取り組んでいます。

また、家庭に配布している献立表や給食だより「いただきたいむ」を通じ、地場産食材の紹介や食育の重要性を掲載し、児童生徒をはじめ保護者を含めた食育の推進を図っています。

学校給食会では、来年 4 月からの消費税増税及び円安、原油価格高騰などによる食材費の値上げにより、給食会計は厳しい運営となっています。このため、10 月 21 日に「学校給食費適正価格検討委員会」を立ち上げ、保護者を対象に「学校給食費アンケート調査」を実施し、給食費の適正な価格について検討してまいります。



## 生涯学習社会の形成

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

10月27日に市民文化祭と連動させた第6回「生涯学習フェスティバル」を市民文化センターで開催しました。切り絵、絵手紙、ニュースポーツなどの体験コーナーや16団体のワークショップブースのほか、「出会いの広場」では、すみえ ししょか 墨絵詩書家 こばやしびやくえん 小林白炎氏の講演を皮切りに、きんかんごじゅうそう 金管五重奏、フラダンスなどの発表も行われ、来場した多くの市民の皆様には体験、鑑賞いただくことができました。

10月4日、ふうれん地域交流センターにおいて、「瑞生大学」主管による四町高齢者交流研修会が開催されました。剣淵町、和寒町、下川町から170人の学生が集まり、研修や交流会をとおして、日頃の学習活動の成果を披露し合い、交流を深めました。

次に、市立図書館について申し上げます。

施設の老朽化による、外壁補修、閲覧室などの内窓設置、一階トイレ及び録音室の改修工事が10月末に完了しました。このことにより、利用スペースの環境改善が図られるとともに、今後も図書資料を安全に保管することが可能となりました。

古典文学講座は、名寄市文化奨励賞を授賞された<sup>さとうきよえ</sup>佐藤喜代枝氏を講師に、「与謝野晶子『その人と作品』」をテーマとして全7回開催

し、延べ 150 人が受講されました。

風連分館では、10 月 17 日に地域子育て支援センター「こぐま」を会場に「秋のおはなし会」を開催し、多くの親子や保育所児の参加をいただきました。

文化の日には、本館、分館で「特別開館」と「雑誌のリサイクル」を行いました。また、本館では「図書館まつり」として、愛読書をブッカーで装丁<sup>そうてい</sup>するサービスや「お楽しみ会」を行い、子どもから大人まで多くの方々の参加をいただきました。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

9 月 18 日から 21 日まで行われた「お月見観望会」では、最終日に名寄市立大学生の協力を得て、初めて来館者にお汁粉の提供を行いました。

10 月 9 日から 11 日には、昨年に引き続き、移動式天文台車ポラリス<sup>ツー</sup>Ⅱを被災地支援として福島県南相馬市に派遣しました。小学校 7 校での天文授業や市民を対象にした夜間観望会の取組が地元ラジオや新聞に大きく取り上げられ、「復興に向けて心の支えになる」と評価をいただきました。

本年度 3 年目を迎えた「小学生による小惑星発見プロジェクト」では、中名寄、智恵文、風連下多寄の小学生 3 人が、10 月から 2 カ

月間にわたって、小惑星発見の夢を叶えるための活動に取り組んでいます。

また、2回目となるハワイからの天文講義は、11月2日に名寄市、東京都杉並区の住民を対象に三元中継で行われました。地元を含む104人の児童や市民が参加して国立天文台ハワイ観測所の<sup>はやし さ え こ</sup>林佐絵子准教授の講義を開き、宇宙の謎を解き明かす研究の仕組みを勉強しました。

### 地域文化の継承と創造

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

56回目となる名寄市民文化祭は、11月1日から3日まで行われました。市民文化センターを会場に行われた展示発表では、30を超える団体や個人から短歌、俳句や絵画、書道、写真のほか児童生徒作品など1,130点が展示され、延べ1,400人に観覧いただきました。市民会館を会場に行われた芸能発表では、名寄太鼓保存会によるオープニングで始まり、ピアノ、バレエ、<sup>ぶよう</sup>舞踊、<sup>そう</sup>箏、<sup>しぎん</sup>詩吟などに25団体、230人が出演し、訪れた800人余りの市民で賑わいました。

風連文化祭は、11月2日、3日にふうれん地域交流センターを会場として開催され、延べ1,200人を超える市民が文化を満喫されました。

(仮称) 市民ホールについては、11月1日から掘削工事に着手したところで、来年3月初旬までに建屋基礎部分を完成する予定です。また、オープニング事業については、事業企画委員会を中心に検討が進められています。

なお、オープンに向けて、国際ソロプチミスト名寄様から、認証30周年記念事業として、山形県鶴岡市出身の彫刻家、加藤豊氏のブロンズ像作品4体を、さらには、名寄市出身の著名な版画家、故・木原康行氏の作品653点ほかを、夫人の千珂様から寄贈いただきました。これらの心温まるご厚意に応えられるよう展示を計画してまいります。

次に、北国博物館について申し上げます。

10月9日、入館者が25万人に達しました。平成8年2月の開館から17年8カ月での達成で、25万人目の入館者となった、さいたま市在住のご夫妻に、教育長から記念品を贈呈しました。

S L排雪列車(キマロキ)保存会が、北海道文化財保護協会から平成25年度北海道文化財保護功労表彰を受賞しました。昭和51年の設立以来37年間にわたり、車両の保存及び北国の鉄道の普及啓発活動の実施、国内で唯一のキマロキ編成車両の展示として全国に情報発信するなどの功績が認められての受賞となりました。

11月8日から24日まで、企画展「懐かしの学び舎展」を開催しました。平成21年に開催した小学校編の続編として、中学、高校、大学について、廃校となった校舎や学校生活の写真、各学校の沿革、位置、現存する校旗などを展示しました。かつての学び舎をなつかしむために、多くの市民の方々が訪れました。

### **生涯スポーツの振興**

次に、スポーツの振興について申し上げます。

本年度も10月14日体育の日に「スポーツフェスティバル」を開催しました。市内体育施設を無料開放したほか、スポーツセンター及び風連B&G海洋センターでは、体力測定などを実施しました。また、名寄・風連両地区の屋内外で様々な催しが行われ、1,461人の市民がスポーツを楽しみました。

### **青少年の健全育成**

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

旧名寄市のピヤシリ子ども会育成協議会により、30周年記念事業の一環として平成5年に埋設されたタイムカプセルが、開封の年を迎え、10月26日に開封式が行われました。新旧役員のほか、当時中心となって活躍された方が東京と札幌から出席され、20年前の思い

出の品々と対面しました。

また、11月24日には、スポーツセンターにおいて、子ども会育成連合会と共催事業の第7回名寄市子ども会スポーツ大会「フットサル」競技が開催され、スポーツを通じ交流を深めました。

次に、児童センターについて申し上げます。

児童センター体育室の屋根改修工事が11月に完了しました。これにより雨もりが解消され、子どもたちにとってより安全安心な居場所となりました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

青少年の健全育成の取組として、平成25年度名寄市青少年表彰式を9月30日に開催し、活動に顕著な功績のある4個人、1団体を表彰しました。

また、小中学校及び高等学校を対象に名寄市青少年健全育成標語を10月から募集し、11月28日に最優秀作品を表彰しました。

次に、教育相談センターについて申し上げます。

10月に市内の全小中学校を訪問し、児童生徒及び保護者へのハートダイヤル周知のための「安心カード」配布を依頼するとともに、

学校からは不登校などの現状について情報をいただきました。

11月15日に、「教育講演会」を開催しました。文部科学省いじめ問題アドバイザーを講師に「いじめ・不登校問題の解決のために～家庭・学校・専門機関との連携～」と題した講演をいただき、学校関係者、保護者など141人の参加がありました。

次に、放課後子ども教室について申し上げます。

11月6日に、放課後子ども教室運営委員会を開催し、前期の活動状況などについて意見交換を行いました。主な成果として、自学自習では、子どもたちに集中力がついてきていることや、テーマ学習では、講師が学習内容を工夫することにより、子どもたちのものの見方・考え方に広がりが見られることなどが挙げられました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。